大学出版

大学と社会を結ぶ 知のネットワーク

THE ASSOCIATION OF JAPANESE UNIVERSITY PRESSES

＊特集
叢書・シリーズ企画と大学出版部

黒田拓也　1
第三五回日本・韓国大学出版部協会合同セミナーを振り返って

郷間雅俊　3
東アジアの翻訳共同体は可能か？
――〈叢書・ウニベルシタス〉と〈ものと人間の文化史〉から

楊　光俊　10
大学出版部における叢書出版の現況とその意味

崔　相根　14
大学出版部の叢書企画、その意味を考える――啓明大学校出版部の事例を中心に

大学出版部ニュース　19

No. 113
2018.2
冬

一般社団法人
大学出版部協会

大学出版部協会　新刊ご案内

ブックレット第4弾

対立を乗り越える心の実践

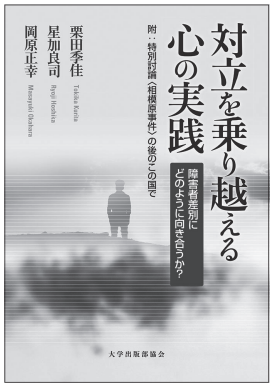
障害者差別にどのように向き合うか？

栗田季佳・星加良司・岡原正幸

大勢の障害者の命が奪われた〈相模原事件〉を起こす影は，私たちの内にある．制度や「ねばならない」的教導では，差別はなくならない．「潜在化する偏見」を炙りだし，その原因となる心のメカニズムと社会的背景にまで遡って考察することで，差別解消への糸口を考える．

［発行：大学出版部協会／発売：東京大学出版会］

ISBN978-4-13-003153-0　2017年2月刊行
A5判／88頁／本体1,000円＋税



主要目次

第１章　見えない偏見
障害者を取り巻く問題に現れる心の動き　（栗田季佳）
第２章　バリアフリーという挑戦
「社会を変える」ことは可能か　（星加良司）
第３章　生の問題として〈対立を乗り越える〉を考える　（岡原正幸）
第４章　討論
対立を乗り越える学問の挑戦　（栗田季佳・星加良司・岡原正幸）
第５章　特別討論〈相模原事件〉の後のこの国で
有事モード下の差別と偏見

特集＊叢書・シリーズ企画と大学出版部

第三五回日本・韓国大学出版部協会合同セミナーを振り返って

黒田拓也（大学出版部協会理事長／東京大学出版会）

秋が深まる二〇一七年一一月一日から四日間の日程で、第三五回日本・韓国大学出版部協会合同セミナーが、風光明媚で温暖な、韓国・済州島を舞台に開催され、日本側からは九名が訪韓しました。

本セミナーは、その開催回数に表れているように、日韓両国の大学出版部に関わってきた多くの諸先輩方が積み上げてきた、友情の証でもあります。

今回のセミナーは、「叢書（全集）企画及び、大学出版部」を全体の主題とし、双方二名ずつが報告を行い、それを基に活発な議論が展開されました。

ご紹介したい議論の内容は多岐にわたりますが、ここでは、個人的に強く印象に残った点を中心に、日韓セミナーの雰囲気を皆様に少しでもお伝えできればと思います。

日本の大学出版部はもとより、韓国の大学出版部もとても厳しい環境におかれています。大学の研究・教育活動を支援し、知を多くの方々に開く役割を担い、出版文化に貢献する、という共有すべき理念を常に意識はしているものの、決して余裕があるわけではない組織的体制のなかで、ともすれば大学内の付属機関としての役割や機能だけを果たすことに止まったり、逆に利益を生むことだけを求められたりと、大学出版部が持つべき理念に沿った活動を継続することには困難が伴います(1)。

韓国の大学出版部では、そうしたなかでもあるべき出版活動を追求するための一つの重要な手段として、「叢書（全集、シリーズ）」が位置づけられており、本セミナーの主題として掲げられたのも、このような背景があってのことです。

韓国側報告者のお二人、楊光俊氏（忠南大学校出版文化院）と崔相根氏（啓明大学校出版部）のお話からは、韓国の大学出版部それぞれが、母体校の特徴を広く伝えるために叢

書を充実させていること、そしてもう一つ、地域との連携を効果的に表現するために叢書の企画を活用しようとしていることに強い印象を受けました。楊氏は特に、大学出版部が大学を越え地域との関わりを持ちながら新しい書籍を出版することを提言されています。

韓国の中における「地域」というものがどのような位置にあるのか、筆者個人としては必ずしも明確なイメージを持っているわけではないので単純な比較はできませんが、日本でも北海道大学出版会、弘前大学出版会、東北大学出版会などが地域特性を活かした特徴ある出版物を刊行していることをふまえると、大学が置かれている「地域」を切り口にした出版企画には新たな可能性を追求する余地があるように思います。

日本側のメインの報告は郷間雅俊氏（法政大学出版局）によるものでした。法政大学出版局には、刊行点数がすでに一、〇〇〇点を超える「叢書 ウニベルシタス」と、こちらも一七九点（二〇六冊）の既刊を数える「シリーズ ものと人間の文化史」があります。

郷間氏は報告のなかで、「翻訳」をキーワードに上記の二つをはじめ、法政大学出版局が積み上げてきたいくつかの叢書・シリーズを紹介してくれました。

郷間氏によれば、「翻訳」とは、「すでにこちら側にある世界とは別の世界を発見し、そこから何か新しいものを導入し、迎え入れる精神的修練そのもの、あらゆる理解の始まりに位置する行為」だと述べています[3]。この定義は学問という営みに通じるところがあり、「叢書 ウニベルシタス」が「書物による大学」をキャッチフレーズに始まったことも当然でありましょう。

そして、この郷間報告によって、出版による「東アジアの連携」がフロアから提起され、その具体的な方策も話し合われたことも、実に自然な流れでした。

三五回にわたって毎年開催されてきた日韓セミナーは、郷間氏の言う、まさに「翻訳」という営みの積み重ねであり、お互いが開かれた姿勢でコミュニケーションをとってきたからこそ、近年の充実した活発な議論を呼び起こしてくれています。

セミナー会場だけでなく、膝を突き合わせての交流会の場、果ては深夜に、韓国大学出版協会理事長・張宗洙先生の部屋での車座の懇親に至るまでのさまざまな場面は、今後の両国大学出版部協会同士のさらなる連携の深まりへの期待とともに、いまも楽しく思い出されます。

（1）崔相根氏の報告「大学出版部の叢書企画、その意味を考える――啓明大学校出版部の事例を中心に」（本誌14頁）を参照。

（2）郷間雅俊氏の報告「東アジアの翻訳共同体は可能か？――〈叢書・ウニベルシタス〉と〈ものと人間の文化史〉から」（本誌4頁）を参照。

特集＊叢書・シリーズ企画と大学出版部

東アジアの翻訳共同体は可能か？

――〈叢書・ウニベルシタス〉と〈ものと人間の文化史〉から

郷間雅俊（法政大学出版局）

金時鐘　だからね、四・三〔事件〕という喩えようもない、大変な民族的受難の事実が、それほど大きいものだから、金石範のニヒリズムを突き破ってくれたわけだ。なまじっかそこらの小説を書いていたらね、結局、石範兄も死んでいたと思う、自殺して。

金石範　昔、時鐘になぜ「在日」をテーマにして書かんか言われたんですわ。昔からそういう編集者たちもいるわけ。なんであの済州島ばかり書くのか。なんで「在日」書かないんですか〔……〕でも四・三のこと、誰も言わなかったじゃない。済州島を書いてきて、今では四・三のことも知られるようになったけれど。長いあいだ、済州島も、四・三も何も存在しなかったんだよ。四・三はただ私が生きるために書いただけだった。

（金石範・金時鐘『なぜ書きつづけてきたか　なぜ沈黙してきたか――済州島四・三事件の記憶と文学』平凡社、二〇〇一年、一九九―二〇〇頁）

はじめに

今回の日韓セミナーが済州島で開催されると聞いたとき、すぐに思い出されたのが右の本です。いずれも在日朝鮮人の作家・詩人として著名な、金石範さん（一九二五～）と金時鐘さん（一九二九～）による対談です。二人はともに、済州島の歴史と深い関わりをもつ文学者で、戦後すでに七〇年近く、日本語で小説や詩を書き続けてこられました。対話のなかで二人が語っているのは、歴史的に「済州島四・三事件」として知られる、一九四八年に生じた大きな悲劇を、どのように物語るかという問題です。第二次大戦終結後、朝鮮戦争の勃発にいたる途上に起きたこの事件は、朝鮮半島からやってきた韓国軍・警察・右翼青年団によって、反共を名目に（推定）六万人以上もの島民や労働者が虐殺された白色テロルでした。このトラウマ的事件が、やがて

済州島出身の両親をもつ金石範さんの小説の核心となり（『火山島』）、金時鐘さんはまさにその弾圧の渦中を逃れて、密航船で命からがら大阪に流れ着いた人物でした。

この四・三事件から、二〇一八年でちょうど七〇年です。けれども、いまだに冷戦構造は残存し、世界の軍事的緊張は緩和に向かうどころか、むしろ無秩序への逆戻りさえ感じさせる情勢が続いています。「大変な民族的受難」は、朝鮮半島に限らず、いまも地上のあちこちで生じており、政治的テロも日常化しています。為政者や「文化人」たちが悪びれもせず他者憎悪のメッセージを放つ一方、社会のアノミーに耐えきれない者たちが、悪の原因を特定の隣人に帰することでようやく自己承認を得ているようなレイシズムが蔓延しています。他人を人質にとる核爆弾に護られた平和や繁栄に、どんな人間的意味があるのでしょうか。

私たちはこうした状況に慣れており、日々ニュースで目にしても、右から左へと流してしまいがちです。けれども、金石範さんが言うように「誰かが言い」、文字として流通させないと、事件は〈歴史〉にはならず、「なかったこと」にされてしまいます。忘却への抵抗のために書くということは、ジャーナリズムや文学活動に限らず、学術出版の世界でも同じでしょう。どんな小さな島の歴史であれ、それが人類にとって重要であるなら、記録され出版されるに値し、それによってのみ歴史は熟するでしょう。

そして、歴史について何かを言うこと／書くことは、必ず〈翻訳〉の問題に直面します。翻訳とは何でしょうか？旧約聖書のバベルの寓話では、人類が傲慢にも神のごとき存在たらんとして、巨大な塔を打ち立てようとした瞬間、地上の言葉はバラバラになり、諸民族の言葉が互いに通じなくなったとされます。ですが、言葉が互いに異なるのは、自然史的にみれば当たり前のことです。むしろ、互いに理解しあえない人々の間の断片的翻訳こそが根源的な言語活動であり、翻訳がなければ歴史はないでしょう。翻訳とは、すでにこちら側にある世界とは別の世界を発見し、そこから何か新しいものを導入し、迎え入れる精神的修練そのもの、あらゆる理解の始まりに位置する行為です。あえて言えば、原本があって翻訳があるのではなく、逆にいかなる原本も翻訳があって初めて成立しているはずです（あらゆる書物の原像としての聖書がそうであるように）。

こんなことを申し上げたのは、法政大学出版局の刊行物に、翻訳書が多いという事実があるためです（既刊書のうち、約半分は翻訳書です）。大学出版部ならば、所属教員のオリジナルな研究成果を中心に刊行するのが、正統的な活動でしょう。ですが、法政大学は首都の中心に位置するものの、日本全国に数百も存在する私立大学の一校にすぎません。学内教員による本を教科書にして経営を続けるには市場規模からいって無理があり、一私立大学の名を冠した出版物が、その大学に縁（ゆかり）のない一般読者からの注目を得ようとしても難しい面があるのは否めないでしょう。

そんななか、私たちが今日、ある個性をもった版元として存続しているとすれば、それはもっぱら、学内から相対的に独立した編集体制で翻訳書籍に力を注いできたことの効果に違いありません。それはなぜだったのでしょうか。

〈ウニベルシタス〉——西洋的人文知の追求

出版局は、法政大学の創立七〇周年記念事業の一環として、一九四八年末に設立されました。四・三事件と同年ですが、国家が南北に分断された朝鮮半島ではその後もずっと政治的苦難が続いた一方、焼け野原となった日本は、米国占領下で民主主義を迎え入れました。法政はとりわけ、戦前から続く民主的知識層が経営にあたったこともあり、リベラルを基調とする大学として再出発しました。その空気は、現在の田中優子総長の体制にまで続いています。

出版局の最初の出版物は、四九年春に刊行されますが、それは史上初の広島原爆被害ルポとして知られる、米国の作家ジョン・ハーシーの『ヒロシマ』でした。初めからして翻訳書でした。もともと日本という国が、明治維新以来、アジアで先行して近代化を実現できたのは、欧米の書物を貪るように翻訳し続けた結果なのは間違いないでしょう。開国から五〇年も経たない大正末〜昭和初期にすでに、西洋の近代小説などの廉価版全集が濫造されてさえいました（円本時代）。近代日本語自体、ヨーロッパ自然主義文学などの翻訳・出版活動を通じてはじめて、いま私たちが日常的に話し、書いているような文法・語彙に練り上げられたという事実は、何度でも思い起こす必要があります。

その後出版局は、一九五〇年代から六〇年代半ばまで、教科書や自然科学系の啓蒙書を中心に活動しましたが、経営状態は芳しくなかったようです。やがて局内の世代交代が起こり、生協の元職員や学内出身の若者など数名が編集者となり、現在にいたる路線を軌道に乗せます。ともに六七〜六八年に発刊された二つのシリーズ、〈ウニベルシタス〉と〈ものと人間の文化史〉が、局の看板になります。

当時の日本では、新左翼運動による学生叛乱が全盛を迎

定評あるロングセラーの
内容はそのままで，
薄く，軽く，
持ち歩きやすい

物理入門コース
［新装版］
全10冊

A5判・並製

力　学
戸田盛和
本体2400円

解析力学
小出昭一郎　本体2300円

電磁気学 I・II
I ―電場と磁場―
II ―変動する電磁場―
長岡洋介　本体2400円・1800円

量子力学 I・II
I ―原子と量子―
II ―基本法則と応用―
中嶋貞雄　本体各2600円

熱・統計力学
戸田盛和　本体2500円

弾性体と流体
恒藤敏彦　本体2900円

相対性理論
中野董夫　本体2900円

物理のための数学
和達三樹　本体2600円

電子書籍版 表示価格は税別
力学 価格2200円／解析力学 価格2100円／電磁気学 I 価格2200円／電磁気学 II 価格1600円／量子力学 I・II 価格各2300円／熱・統計力学 価格2300円／弾性体と流体 価格2600円／相対性理論 価格2600円／物理のための数学 価格2300円

岩波書店
東京・千代田・一ツ橋
（定価は表示価格＋税）
http://www.iwanami.co.jp/

えていました。既存の大学は、帝国主義に奉仕する機関だとして批判され、〈大学解体〉のスローガンが叫ばれました。いかにマルクス主義のカラーが強かったにせよ、そこでは若者たちの反戦への思いが、世界変革への希望として夢見られていたのも事実です。沖縄や朝鮮やベトナムの抑圧された人々やマイノリティに対する共感が、日本国内で一定の言葉を獲得したのも、ようやくこの頃のことです。

〈ウニベルシタス〉はそうした時代背景のなかで、明確な編集方針をとります。つまり、いまだ紹介されざる西洋文明の古典的著作家や同時代の思想家たちの翻訳に集中するということです。〈ウニベルシタス〉というラテン語には、〈普遍性〉と〈大学〉の二つの意味が込められます。たとえ大学に通えない読者でも、本叢書をひもとけば欧米の大学の知に触れられるという意味で、〈書物による大学〉をキャッチフレーズに、この叢書は始まっています。

一九六七年から今月（二〇一七年一一月）まで、既刊一〇六九点に達したこの翻訳書シリーズのほとんどは、哲学思想・歴史のジャンルに属します。つまり、時事的情況から距離をとり、東アジアや日本の文脈ともいったん離れて、西洋由来の文明世界の成り立ちをどう捉えるべきなのか、根源的・客観的に思考する材料を日本の読者に提供しようとしてきました。仏・独・英語からの訳が圧倒的に多いですが、西語、伊語、露語などの本も含まれます。個々の内容は、古代哲学から現代哲学、歴史学、政治学、社会学、人類学、経済学、芸術学、文化史、言語学、宗教学……と多岐にわたります。主な著者には、ヴィトゲンシュタイン、ポパー、オルテガ、アドルノ、ベンヤミン、ブロッホ、フライ、ジラール、ボードリヤール、レヴィナス、デリダ、ドゥルーズ、トドロフ、ガダマー、ルーマン、ハーバーマス、エリアス、サーリンズ、サイード……などがいます。翻訳者たちはほぼ、全国の大学に籍を置く教授や非常勤講師たちです。日本の七〇年代以降の文系アカデミズムが、実存主義から構造主義、ポスト構造主義を咀嚼していく過程で、本叢書を大いに活用してきたことは確かです。

販売面では、バブル経済のなかで日本の書籍売上が最盛期を迎える一九八〇～九〇年代半ばまでの時期、〈ウニベルシタス〉も最も堅調でした。二千～四千部販売できた本も少なくなかったようです。その後二〇年が経過した現在、いまや歴史や教養はフラットな情報となり、多くの若者は本を読まず、「スマホ」しか持たなくなりました。平均すると、一千部ほどまでに販売部数は落ち込んでいます。これは不可避ではありますが、憂慮すべきことです。

ところで、一私立大学の出版局が、このような「翻訳書オンリー」の叢書を展開するにあたっては、語学的能力の限界もあり、翻訳の質への批判を頂戴することもよくありました。しかしながら、〈大学〉の原義とはもとより、真理を求める者たちがヨーロッパ各地を遊学して師弟関係を結び、古代の言語を翻訳・読解（誤解）しては、国境を超

えて新説を提示するという共同体そのものでした。現在のように、教育機関として制度化される以前の姿を思い浮かべてみなければなりません。

その意味では、この叢書は法政の固有名を冠してはいても、この大学だけのものではまったくありません。未知なる書物の〈翻訳〉を切実に求めてきた日本の訳者たちが作り出した、幻の大学なのです。

〈ものと人間の文化史〉――東アジア的民衆生活の再構成

他方で、〈ウニベルシタス〉と同時に発刊され、現時点で一七九点（二〇六冊）の既刊書があるのが、〈ものと人間の文化史〉です。こちらは、『船』『狩猟』『からくり』……に始まり、最新刊の『はんこ』『相撲』等にいたるまで、一テーマ一冊（もしくは二～三分冊）を、一人の著者が執筆するという形です。ジャンルとしては、日本の文化を形成してきた事物や風習をめぐるフォークロア、文化史・社会史を扱っています。ただし、著者の職業や立場はさまざまで、アプローチの仕方も多様です。いわば、百科事典の一々の項目語がそのまま一冊一冊になったようなマニアックさが好評を得ているシリーズです。

ただし、民俗学やエスノロジーは往々にして、自国中心主義の罠に陥りがちです。人類学という学問の成り立ち自体、欧米植民地帝国による、後進諸国の土着文化の科学的理解（＝支配）を目的として発展してきたからです。たとえば、日本民俗学を確立した柳田國男ももともと農政学者であり、一時期は大日本帝国の官僚として、その植民地政策に関与する立場にありました。彼が直接にではなくとも、台湾や朝鮮の旧慣調査のプロセスに関係をもつことによって、その民俗学が成立してきたという経緯に対しては、九〇年代以来、国内で厳しい批判がなされてきました。民俗学や人類学はいまや、美学的な「一国民俗学」を批判し乗り越えなければ存立しえません（一方で柳宗悦のように、朝鮮美術の尊厳を理解しえた美学者もいましたが）。

つまり、「日本文化」という一つのオリジナルな実体が

新刊案内

◎跳梁跋扈する歴史修正主義に対する鮮やかな批判の書
岡本充弘 著
過去と歴史――「国家」と「近代」を遠く離れて
四六判・二八〇頁・本体二八〇〇円
個人から歴史を考えなおす――過去はなぜ私たちの前に歴史として現れているのだろう。ポスト真実の時代に対する歴史家の応答。

◎地域研究、伝統文化論、民族誌論、知識社会学などに事例を基に貢献
小林 誠 著
探求の民族誌――ポリネシア・ツバルの神話と首長制の「真実」をめぐって
菊判・二六〇頁・本体七〇〇〇円

◎重工業を基盤とした東アジアの工業化・産業発展の構造
上田修・李捷生 編著
日本鉄鋼業の経営・生産管理方式の形成と再編――競争力の構築から海外展開へ――東アジアとの比較を視野に
菊判・一〇二〇頁・本体一七〇〇〇円

◎共同にまつわる基本集団の変化から日本社会の戦後史を捉え直す
高橋英博 著
社会と個人――どこから そして いずこへ
A5判・二四〇頁・本体二四〇〇円

御茶の水書房
〒113-0033 東京都文京区本郷5-30-20
電話03-5684-0751
http://rr2.ochanomizushobo.co.jp/

あるわけではありません。近代日本は翻訳文化で作り上げられたと先ほど述べましたが、古代日本もまた、大和言葉の表記のために漢字を輸入し、飛鳥時代に仏教を導入して中央集権国家を支えたように、つねに先進文明の模倣と翻訳によって発展してきました。中国大陸や朝鮮半島、琉球列島などとの間で、経済的な物資の交易がつねに続いてきたのも言うまでもありません。実際、長い時間をかけて、貴族層のみならず、商人や民衆が主体となって「さまざまな日本文化」を織りなしてきたわけですが、その過程にはつねに、東アジア規模でのあれこれの技術移転や技術革新をめぐる、さまざまな〈翻訳〉の物語があったはずです。

〈ものと人間の文化史〉が光を当てているのは、まさにこの〈翻訳〉のプロセスでしょう。日本の各地に見られる古き文物が、ときに半島や大陸とのあいだで海上を往来しながら、どのように誕生しては消えていったのか。各分野で、一般には忘れられてしまった物事や言葉を、著者たちは歳月の壁を越えて掘り起こし、注釈を加え、人々の暮らしを再構成していきます。著者は大学教員はむしろ多くなく、おもに在野の研究所などで、長年専門実務に携わった人々です。彼らは独自の論理でもって、自分が一生をかけて調べてきた事物文化の来歴を、詳細に綴っていきます。

ちなみに、日本人が日本という国の歴史を振り返る際にも、すでに言葉の壁があります。急激な近代化の結果、たった一〇〇年前に書かれた文章を読むことも今の若者には困難なほど、日本語そのものが変化してきました。江戸時代以前に書かれた文献は、すでに日本人自身にとって外国語に近く、専門家による注釈なしには読めません。自国の文化を理解するうえでも翻訳が必要なのは、そのためです。

一国史やオリエンタリズムの閉塞を超えて、国民国家以前に生きたわれわれの祖先の過去をいまの言葉に翻訳してくれている本シリーズは、政治家や官僚の語る歴史とはまったく別の歴史があることを教えてくれるのです。

おわりに

上記以外にも、出版局には複数の叢書がありますが、紙幅の制約のためごく簡単に触れざるをえません。たとえば、全三〇巻の〈韓国の学術と文化〉シリーズもまた、すべて翻訳書から成る叢書です。これは日韓文化交流基金から支援を得て刊行できたもので、現総長の田中優子氏ら編者が、韓国の主要な人文社会科学書三〇点を選定した大企画でした。一九九九年から二〇〇八年までの間に完結しましたが、「日本と韓国の間に新たな知的関わりを築くことをめざして、韓国の歴史・社会・政治経済・民俗・文化・芸術の基本書を紹介する」ことを目的としていました。

また〇八年からは、〈叢書・サピエンティア〉が始まっています。こちらは社会科学に特化したシリーズで、つい先頃、五〇点目の書目『パレスチナの民族浄化』を刊行したばかりです。これもまた、パレスチナの「大変な民族的

受難の事実」を扱った本で、移民や難民問題、継続する植民地主義といった、グローバル社会の難問に対峙するものです。平和と人権をめぐる諸問題の解決に必要な〈知恵〉を探究するこの叢書にも、韓国・朝鮮に関わるタイトルが複数含まれています（鄭栄桓『朝鮮独立への隘路』、権赫泰『平和なき「平和主義」』、白永瑞『共生への道と核心現場』など）。

こうした書籍が今後も増えていくことは、東アジアの相互理解がより切実な義務となっている現在、必然的な動向でしょう。実際、これまで〈ウニベルシタス〉では欧米の思想ばかりを翻訳紹介してきましたが、それに対する反省の必要な時期がとうに来ています。日本では、明治以来、欧米列強の植民地にされることへの恐怖から「脱亜入欧」が叫ばれてきました。その結果、思想の分野でも、これまでずっと欧米中心の議論が続けられてきたのが事実です。けれども、二一世紀の現在、いまだに「脱亜入欧」の夢を見るのは無意味であり、むしろ、かつて可能性として存在していた新しい草の根のアジア主義のようなものを、双方向の活発な翻訳を通じて、文化・学術レベルでも拡大していくことが喫緊の課題です（現在の非対称な状況を超えて、日本の出版界側がアジアの人文書をもっと紹介すべきでしょう）。

そのためには、さしあたり韓・中・日の著作権契約において、お互いに版権を取得しやすい仕組みを作るとか、あるいは国家的な文化事業としての翻訳支援制度が検討されるべきかもしれません。そうしたインフラのもとで多くの若い翻訳者が育っていけば、各国の注目の書がより頻繁に、かつ深く共有される状況が作れるのではないでしょうか。大学出版部協会を通した交流が、そのような相互作用の媒介となれば、最善の成果を生むに違いありません。

かつてゲーテやサイードが夢見たような〈世界文学〉、在日朝鮮人の亡命文学が獲得してきた普遍性に対応する理念を、学術書の世界でも思い描けないだろうかということが、本発表のささやかな意図をなしています。今後の継続的な努力が必要です。

戦争勃発から150年、
今までにない視点から
新しい戦争像に迫る！

戊辰戦争の新視点 全2冊

奈倉哲三・保谷　徹・箱石　大編
各2200円　『内容案内』送呈
518日にわたる内戦は、社会や人びとにいかなる影響を与えたのか？戊辰戦争研究の最前線へ誘う。

上 **世界・政治**
世界の注視を浴びた内戦。新たな政治秩序の創出を。

下 **軍事・民衆**
西欧の軍事はどう活用されたか。民衆は戦争にいかに関わったか。

日本文化史講義
大隅和雄著　いかに「日本文化」が育まれたのか。歴史の捉え方が変わる文化・思想史！　2400円

角田文衛の古代学
全4巻 公益財団法人古代学協会編
❹**角田文衛自叙伝**
生粋の歴史学者九十五年の生涯を追う。　（第1回配本）5000円

古代国家と仏教美術 シリーズ全6巻完結
【奈良・平安時代】　3500円
増記隆介・皿井　舞・佐々木守俊著
再生産される古代の造形。古代仏教美術史にみる権力の継承。
（天皇の美術史❶／最終回配本）

花押・印章図典
瀬野精一郎監修・吉川弘文館編集部編
古より使われてきた花押約2000と印章約400を収録。3300円

戦争とトラウマ
不可視化された日本兵の戦争神経症
中村江里著　なぜ戦後長らく忘却されてきたのか？　4600円

日本メディア史年表
土屋礼子編　SNS・テレビ・新聞から映画・雑誌・ラジオまで。はじめての総合的年表！　6500円

吉川弘文館
〒113-0033・東京文京区本郷7-2-8
電話03-3813-9151／価格は税別

大学出版部における叢書出版の現況とその意味

楊光俊（忠南大学校出版文化院）

はじめに

大学出版部の役割を明確にするためには、大学出版部の存在理由を説明する必要がある。大学出版部は今まで、大学の教材を供給し、教員の研究業績を出版するところとして、多く売れる本、広く読まれる本を中心に出版してきた。それが大学出版部の存在理由だったからである。限られた予算と人材で大学出版部を運営するだけで手一杯のなかで、とにかく生き残るために力を尽くしてきたことは間違いない。しかし、少し立ち止まる必要がある。はたして大学出版部の役割は何であり、我々はそれを果たしてきたのか。

大学出版部の役割は二つに大別できる。一つは大学内での役割であり、もう一つは地域社会での役割である。前者は大学教材や学術書の出版などである。後者は地域社会がもつ歴史や文化、哲学などをテーマとする書籍を出版し、地域の特徴を明らかにしつつ、それを通じて韓国文化を広めることを意味する。

本稿では、大学出版部が出版している叢書を通じてその役割を探り、大学出版部のあり方を考えてみたい。

叢書の意味と種類

一般的に「叢書」とは「同じ種類・分野の事柄を、一定の形式に従って編集・刊行した一連の書物」を指し、英語でいう series や collection である。出版界ではシリーズ出版を、完結型シリーズと継続型シリーズの二つに分ける。韓国では主に完結型シリーズを「叢書」と呼ぶが、「全集」もそれに含まれることがある。全集は本が各々に出版された後に、企画・編集される図書のコレクションを表すことが多く、叢書は事前に企画される点に違いがある。また、継続型シリーズには、文庫本を挙げることができる。

オ・キョンホによれば、叢書は一定のテーマについてそれぞれの立場の著者による著述を多角的に集めることであると定義される。一定の市場を予想しながら、特定の方向へ、特定の対象を扱う複数の本を、特色をもつように揃える。例えば「今日の韓国」というテーマのもと、政治・経済・文化・教育・国際関係・環境など各分野の専門家が執筆し、その著作を一定の枠組みで出版すると、それが完結型シリーズとしての叢書になる。

叢書は「家叢」、「専叢」、「雑叢」の三つで分類される。「家叢」とは一人の著者の著述を揃えたものである。春園の小説、詩、随筆の全作品、論文、書簡などをジャンル別に解説を加えて出版すると「春園家叢」と名付けられる。「専叢」とは特別な事項を掲げ、専門的に揃えて出版することである。例えば、現代詩論、作家論、時代小説論、歌謡論、国文学概論、国語学、現代小説論、文体論、語彙論、国語史などの専門的著述を集めた「国語国文学専叢」が挙げられる。大学出版部から出版される学術叢書や教養叢書はこれに当たる。また忠南大学校出版文化院では「白馬学術叢書」や「大徳講義叢書」が出版されているが、そのテーマと分野は広範囲にわたり、これは「雑叢」に当たる。

大学出版部の叢書出版の現況と特徴

大学出版部から出版する叢書は三つの形に大別できる。一つ目は学術および教養に関わる叢書、二つ目は地域と関わる叢書、三つ目は韓国とグローバル関連叢書である。

まず、学術および教養関連の叢書類が、大学出版部から最も多く出版される。これは、テーマ・目的・方法などによっていくつかに分かれる。

例えば、大学の設立の目的や趣旨に合わせて叢書を出版する場合がある。カトリック大学校の「カトリック神学叢書」や浸礼神学大学校の「宗教改革５００周年記念叢書」のように、神学大学か、神学を中心として設立された大学では、神学の発展のための叢書を出版している。釜山外国語大学出版部は、「国際地域文化叢書」を出版している。

最後のソ連世代
ブレジネフからペレストロイカまで
ユルチャク　ソ連崩壊とは何だったのか。鍵を握る後期ソ連社会の実態を内から照らし、崩壊の謎に迫る。半谷史郎訳 ¥6200

アメリカを探る
自然と作為
斎藤 眞　建国以来現在までを貫くアメリカ理解のために。宗教・外交・大統領など、第一人者の遺稿集。古矢・久保監修 ¥5500

幕末的思考
野口良平　明治の到来とともに隠蔽された、普遍と道理に拠る立国の思考。その画期性・今日性を歴史の行間に炙りだす。¥3600

インディオ社会史
アンデス植民地時代を生きた人々
網野徹哉　近世グローバリゼーションの渦中にあった植民地世界。再創造されるインカ表象。……先住民の魂に触れる。¥5500

日米地位協定
その歴史と現在
明田川融　日本は主権国家なのか。沖縄の構造的差別の諸相は。占領期から現在まで、全土に関わる「不平等協定」の全貌。¥3600

完訳 天球回転論
コペルニクス天文学集成
地動説を唱えた科学史第一級の古典、全６巻完訳。未刊論考と書簡を加え、精緻な訳注・解説を付す。高橋憲一訳・解説 ¥16000

ヴィーコ論集成
上村忠男　学問に必要なのは認識可能なものと不可能なものを区別する原理である。第一人者の長年の研究を集大成。¥10000

東京文京本郷2丁目20-7　みすず書房
tel. 3814-0131 fax 3818-6435（税別）
http://www.msz.co.jp

外国語と外国文化の理論と実際を研究・教授することは、多様化していく国際社会にアクティブに処することのできる人材を育成し、国家と人類社会の発展へ貢献するという大学の建学理念にふさわしい。梨花女子大学校出版文化院では、「女性学叢書」を出版している。成熟したキリスト教的人格と献身的な奉仕の精神、そして専門的学術的知識によって、男女平等でバランスのとれた社会を具現化していく開拓者的な女性の指導者を養成するという、大学の目的にかなったものであり、本大学校が韓国の女性学の先駆的役割を担っていることをよく表している。

医学をテーマにした一般読者向けの教養叢書の類いもある。檀国大学校出版部は大学病院の医学知識を一般読者向けにわかりやすく伝える「大学病院の健康教室」を、ソウル大学校出版文化院は「Health＋シリーズ」を出版している。特殊教育分野では、大邱大学校出版部は特殊教育分野の中等特殊教師の養成のために「特殊教育叢書」と「治療教育叢書」を出版している。

人文学関連の叢書では最も一般的なものとして、建国大学校出版部の「世界作家探求シリーズ」がある。また、慶星大学校出版部は、「慶星大文化叢書」を出版している。文化研究の最新方法論、文化企画と文化行政・文化経済・経営など、文化関連の叢書である。延世大学校出版文化院では、文学の概念と用語、そして文学現象に関わる様々なテーマと理論を体系的に説明する「文学の基本概念シリーズ」を出版しているし、嶺南大学校出版部では「人文学育成叢書」を出版している。

一方、大学内の研究所などの機関と協力して出版されるものも多数ある。檀国大学校出版部は、東洋学研究所との企画で「東洋学学術叢書」を出版し、釜山大学校出版部は「映画研究所学術叢書」、ソウル大学校出版文化院は「アジア研究所叢書・基礎研究シリーズ」、忠南大学校出版文化院は、大田市民社会研究所と協力した「市民社会研究シリーズ」や「認知文化研究シリーズ」を出版している。

二つ目の地域関連叢書類は、単に地理学的意味の地域だけではなく、各大学が位置する地域と密接に関わりをもつ文化・歴史・哲学・言語などのテーマで構成される。慶尚大学校出版部では慶南地域の人物、歴史、地理、環境、文化などをストーリーテリングし、地域のコンテンツを積極的に発掘することを目的にした「知＆Ｙｏｕ　ローカルブックス」をシリーズ化している。啓明大学校出版部は、大邱を中心とした嶺南地域固有の文化と歴史の資料の保存、地域コンテンツの拡散と学問の拡張性をねらう「嶺南学叢書」や「洛中学叢書」などを出版している。

最後に韓国とグローバル現象についての叢書類であるが、これは韓国的なものと世界的なものの間の価値を探求する。国際的競争力を確保するには、自らの価値を見直し、世界共通の普遍的価値を追求することが必要であり、この種の叢書がもつ意義は大きい。啓明大学校出版部の「韓国学研

究叢書」、嶺南大学校出版部の「民俗文化資料叢書」と「中国研究叢書」、ソウル大学校出版文化院の「アメリカ学叢書」と「日本研究叢書」、成均館大学校出版部の「東アジア学術院叢書」などがそれに当たる。

こうして大学出版部の叢書を見てみると、学術・教育の領域において専門的で多様な叢書を出版してきたことがわかる。しかし、残念なことに、地域関連の叢書類の出版が少なかった。これは、大学出版部の役割とこれからの課題を考える際に重要な事実であろう。

大学出版部の新しい位置づけのための提言

大学出版部は大学が必要な教材を提供するという一義的目的を達成してきた。また、出版環境の変化と多様な著者によって、大学出版部は所属教員の論文集の出版から一般書の出版に至るまで、その領域を広げていった。

これまで述べてきたとおり、大学出版部は様々な領域の叢書を出版している。それが韓国の文化を豊かにする重要な養分になることは疑うまでもない。しかし、それだけで大学出版部が自らの役割を果たしているとはいいがたい。また、その役割に安んじてもいけない。重要なことは、この先、大学出版部がどのような方向性をもち、新しく位置するかということである。

この問題について、本稿では大学出版部と地域の連帯を提案する。地域の拠点大学であろうとなかろうと、大学は地域と不可分の関係にある。大学出版部が大学を越え、地域との繋がりをもちながら、地域文人叢書、地域文化叢書などの新しいシリーズの出版を提言したい。

「地域」は中央から外れた死角地帯という意味が込められている。しかし、地域の文化が無意味であるわけはない。中央が目を背ける地域本の出版を地域の大学出版部が担うとすると、大学出版部の存在価値は上がるだろう。

限られた予算と不足する人材といった大学出版部の抱えている現実的な問題はあるが、良い叢書の出版に大学出版部の主導的役割を期待したい。

藤原書店

資本主義と死の欲動
フロイトとケインズ
G・ドスタレール＋B・マリス　貨幣への際限なき欲望から人間は解放されるか？　斉藤日出治訳　3000円

「地政心理」で語る
半島と列島
ロー・ダニエル　半島と日本は、本当に似た国か？ 日韓関係、北朝鮮問題を打開する糸口。3600円

テクノクラシー帝国の崩壊
「未来工房」の闘い
R・ユンク　“生命の危機”に抵抗する全ての運動を、孤立化させないために。山口祐弘訳　2800円

時代を「写した」男 ナダール
1820-1910
石井洋二郎　写真、気球…破天荒な生涯と、驚異的な交遊関係を描く、決定版評伝。　8000円

手紙を通して読む
竹山道雄の世界
平川祐弘 編著　リベラリズムを貫いた文学者の手紙に体現された、「昭和の時代精神」。4600円

男のララバイ
心ふれあう友へ
原 荘介　森繁久彌、川内康範らとの交友記。ギターひき語り半世紀、“団塊の世代”へ。2800円

多田富雄コレクション 完結
全5巻
1 免疫と生命　2 食・美・旅　3 リハビリと医療　4 能の現代性　5 未来へのメッセージ　セット計15000円

月刊 機
B6変32頁　12月号 No.309
浪川健治・古家信平／養老孟司／最相葉月／新保祐司／金時鐘／尾形明子／平川祐弘／大城立裕／加藤晴久／中西進／中村桂子／横佐知子 ほか
年間購読料2000円(送料込)　◎見本誌・ブックガイド呈　＊表示価格税抜
〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町523
振替 00160-4-17013　TEL 03-5272-0301
ホームページhttp://www.fujiwara-shoten.co.jp/

大学出版部の叢書企画、その意味を考える

――啓明大学校出版部の事例を中心に

崔相根（啓明大学校出版部）

はじめに

現在、多くの大学において、大学出版部のイメージはその本質から遠のいているといってよい。大学出版部が単に大学内の付属機関としての役割と機能だけを果たしていたり、あるいは収益のためだけの組織として認識されていたりという現実である。しかし今もなお、大学出版部は大学の研究活動と教育活動を支援し、知の大衆化を牽引すべき重要な役割を担うものであり、出版文化を導く責任をもつ。

このたびの「第三五回日本・韓国大学出版部協会合同セミナー」のテーマは、叢書の企画と出版事例を通じて大学出版部の成果をふり返り、今後のあり方を模索するものである。本稿では、啓明大学校出版部の叢書と全集（シリーズ）の事例について述べたい。

啓明大学校出版部で出版された叢書と全集（シリーズ）は、①「韓国学研究叢書」、②「啓明教養叢書」、③「古文献叢書」、④「嶺南学叢書」、⑤「啓明芸術学叢書」、⑥「木曜哲学叢書」、⑦「啓明人性教育叢書」、⑧「洛中学叢書」、⑨「世界地方化時代韓国学シリーズ」、⑩「韓国語教材シリーズ」（全一四巻）の、合計一〇シリーズである。以下では、①と②について述べる。

「韓国学研究叢書」の企画プロセスと活用・成果

啓明大学校・韓国学研究院は一九七〇年五月の設立以来、韓国学分野の学術研究を行っており、国内ジャーナルである『韓国学論集』（年四回）、国際ジャーナルである *Acta Koreana*（年二回）を発行している。韓国学研究院と出版部は、企画学術大会の優秀な研究成果を叢書化する計画のもと、一九七三年に第一巻目を出版したのを皮切りに、二〇一七年現在、合計四五巻の叢書を出版している。現在も二種（『朝

鮮の中後期「洛中学」の展開と寒旅学派』、『東洋思想の時代診断とビジョン』）が準備中であり、毎年二～四種が出版されている。このように「韓国学研究叢書」は啓明大学校・韓国学研究院が企画を総括し、出版部が参加する形で進行している。年四回行われている国内企画学術大会の発表原稿を集め、整理し、企画会議を通して原稿の専門性と完成度を高めた後、出版部の出版委員会の審査を経て出版している。

プロセスとしては、まず韓国学研究院の学術大会の後、発表原稿を修正・補完し提出すると、審査の過程を経て『韓国学論集』に掲載される。次に、韓国学研究院の運営委員会が学術大会の結果を叢書として出版するか否かを決定し、その後、著者から単行本の原稿として修正されたものが提出され、出版部へ申し込みがされる。出版部は出版委員会に審査を依頼し、それが通ると制作に入る。この際、出版委員会の審査結果を著者に伝え、原稿を修正・補完するよう要請する。

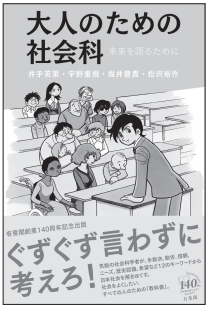
「韓国学研究叢書」は韓国学研究を新しく確立し、さらには人類の精神文化に寄与する目的をもって企画された。大邱・慶尚北道地域において活発だった韓国学研究をより体系的に理論化し、その実践方法を探ることで、学術的成果を共有する。また、地域の大学の出版部が、地域が韓国学の研究成果を出版するという先駆的役割を担うためにも、持続的に叢書を出版している。

啓明大学校では「韓国学研究叢書」が出版されると、研究院の予算で一〇〇部が購入され、韓国学の関連機関や研究所、大学へ無料配布される。これは、韓国学の研究成果の普及と拡散、そして関連機関や大学間の情報共有のためである。また、出版部は国際図書展、歴史学大会図書展などでの展示・広報の機会を積極的に活用し、「韓国学研究叢書」を伝えることで韓国学の新しい研究成果を広く共有できるよう努力している。そのほかに教養授業での教材、研究所の参考資料など、教育・研究面で活用されている。

それでは「韓国学研究叢書」の成果と期待される効果は

有斐閣 出版案内
〈価格は税別〉
東京・神田・神保町2/Tel:03-3265-6811
http://www.yuhikaku.co.jp/

大人のための社会科
未来を語るために
井手英策・宇野重規・坂井豊貴・松沢裕作著
四六判 1,500円＋税
日本社会を12のキーワードから解きほぐす。「反知性主義」が幅をきかせる時代に、わたしたちが考え、将来を語り合うための、「大人のための教科書」の誕生！



戦後日韓関係史
李　鍾元・木宮正史・磯崎典世・浅羽祐樹著
〔有斐閣アルマ〕
2,200円＋税
戦後からは70年が経ち、国交が正常化してから半世紀以上となる日韓関係。人的な交流の拡大に伴い、情報が氾濫し、全体の把握がますます困難になっている。戦後の日韓関係の歩みを、社会・経済の側面も含めて描き、その全体像を示す。

◉図書目録送呈◉

何か。まず、嶺南地域を中心に韓国学分野が絶えず研究されその結果が出版されることで、学会や一般読者に韓国学の重要性を知らせ、その研究成果を普及し拡散する機能を大学出版部が担っているということが一番の成果といえる。

次に、著者の研究意欲を高め、学術出版が促進されたことである。例として「韓国学研究叢書」のなかの四種の図書が「大韓民国学術院が選んだ優秀学術図書」、「韓国出版文化産業振興院の世宗図書学術部門図書」として選定され、大学と出版部の名前を高めることとなった。

また「韓国学研究叢書」を通じて、後続の研究が期待できる。例えば、現在啓明大学校で進行中の『朝鮮の中後期「洛中学」の展開と寒旅学派』は「韓国学研究叢書」のなかで「洛中学」に関する五つ目の研究結果であり、それは別の「洛中学叢書」として企画中である。

このように、「韓国学研究叢書」は単に叢書の出版にとどまらず、新しい韓国学の研究分野を開拓し、一つの新たな学問の定立に大いに寄与している。そして韓国学以外の分野にも研究が拡張し、新しい形の叢書へと再生産がなされる好循環構造をもつことで、良質で優秀な学術書が次々と出版されることが期待される。

「啓明教養叢書」の企画プロセスと活用・成果

また「啓明教養叢書」は、一九九七年から現在まで、学生の人文学や古典に対する理解の幅を広め、正しい人生を育むための必読書として、一〇〇点を出版する計画のもと刊行している。また、啓明大学校の新入生必修の共通教養授業である「教養セミナー」の教材として、学生の読書を奨励し、作文能力を高めることで、積極的で創造性の高い専門性ある人材を養成すること、さらに倫理的で知性あふれる人材を育成することをその目的としている。

現在、六六点が刊行されており、現在も七つの領域に分類された図書を編集中である。新入生の教養教材として毎年異なる領域の図書を選び、授業の活用度を高めるだけでなく、学生が多様な分野の読書をできるように努めている。

企画・出版のプロセスについては、まず啓明大学校のTabula Rasa College（＝教養教育大学）内の教養教育課程委員会で領域別叢書リスト（一〇〇点）を確定し、選ばれた図書の翻訳と執筆を担当する者を公募・選抜する。出版部は選抜された者と出版権についての契約を締結した後、四〇〇万ウォンの教材開発費のなかで、一次研究費として二〇〇万ウォンを前もって支払い、出版が完了すると二次研究費として残りの二〇〇万ウォンを支払う。また、完成した原稿はTabula Rasa Collegeによる監修を通じて教材としての適合性と翻訳の完成度、解説の添付などを検討し、その後、出版部に提出される。編集とデザイン、制作は出版部が担当し、校正は著者と出版担当者が行う。そして、叢書が出版され教材として選ばれると、新入生の教材として配布される。また「教養セミナー」授業の教材としての活

用度を高めるために、学期が始まる前、授業を担当する教員に対するワークショップを開催し、教材を授業に活用する方法を共有している。

「啓明教養叢書」は、企画時から企画の意図と活用方法が明確に決まっていた。つまり、古典によって学生の人文学的嗜好を育むために出版され、共通教養授業である「教養セミナー」の教材として活用されることである。一九九七年から現在まで、「啓明教養叢書」の刊行による教材事業を運営して二一年になる。刊行した叢書のなかから毎年三〜四点を教材として選び、各五、五〇〇部を教材として使用している。また、授業のあとのフィードバックを通じて改善事項を次の年に反映できるよう、教養セミナーの運営委員会はいつも有機的に運営されている。

さらに、「読後感想文大会」を通じても活用されている。Tabula Rasa College と出版部は二〇〇五年から毎年「「啓明教養叢書」読後感想文大会」を開いており、現在二二年目になる。審査委員を委託された教養セミナー運営委員会の所属教員によって二次にわたる審査を行い、最優秀賞一名、優秀賞三名、奨励賞六名、佳作四〇名を選ぶ。大会の経費は全額を出版部から支援し、Tabula Rasa College は大会の進行を主管する。そのほかにも出版部では、二〇一四年から Tabula Rasa College とともに「Tabula Rasa 作文大会」を開催し、ここでも大会の経費全額を支援している。

この作文大会は二〇一四年度の一学期から開設された新入生共通教養授業である「基礎作文」の支援事業であり、学生の作文の能力と表現力を高めるために企画された。そのために出版部では、共通教養授業の教材である「大学生のための作文の基礎」を出版し、活用している。

「啓明教養叢書」の出版の趣旨は、すでに述べたように学生の人文学や古典に対する理解を広げ、正しい人生へと導く「教養セミナー」の授業の教材として活用することで、学生の読書を奨励し、作文能力を高めるためである。そのほかの効果として、「啓明教養叢書」の販売で毎年安定的な収益を得ることができ、教養教材事業の円滑な運営に寄与することが挙げられる。叢書刊行を継続することができるとともに、学生支援事業を通じて学生に収益を還元する側面もある。

「啓明教養叢書」は単に教材として出版されているものではない。若者が古典を学ぶことで、新しい歴史意識と人文学的嗜好を知り、世界のなかの教養人として成長していくことを願っている。そのなかで啓明大学校は「地域と世界のなかで光開く啓明人」をめざして、今も各々の領域で最善を尽くしている。

わが大学校の学生が良い本に出会い、その本を通じて人生を知り、そして生きる道を開いていくための指針としてこの叢書が助けになるのであれば、大学出版部は喜んで叢書の刊行を続けていくであろう。

おわりに

啓明大学校・聖書キャンパスの本館の壁に大きな白紙一枚が貼ってある。その下には「TABULA RASA　我々が顔をもつまで」と書いてあるだけだ。Tabula Rasa とは「白紙」を意味するラテン語である。

一九九六年、啓明大学校のキャンパスに本館ができたとき、学校関係者は啓明の教育理念を一番よく表現する絵を探していた。そのとき、イギリスから一人の学者出身の行政官が学校を訪れた。「一大学が真の高等教育機関として成長するまでに時間はかかるでしょうか」という問いに、彼は「少なくとも何百年はかかるでしょう」と答えた。これが Tabula Rasa という作品が生まれたきっかけである。

Tabula Rasa は、常に大きな理想を追求し、絶えず挑戦していくべきであるというメッセージを投げかけている。白い額縁が掛けられているのは、我々の顔を、わが校の顔をあの白紙に誇らしく描き込もうではないかという意味である。

大学の出版部も同じである。学術書と教材を出版しただけでは責務は終わっていない。絶えずその問いの答えを探るよう努力していくべきなのだ。

啓明大学校出版部は「韓国学研究叢書」を四〇年以上出版している。また、「啓明教養叢書」は二〇年以上続けてきた。しかしここにこのまま留まるのではなく、大学出版部と大学本部は、共同で努力し続けている。

このようなことは、やさしいことではないし、部署間の協力体制においても多くの難点がある。それにもかかわらず、このような事業モデルを通じて、大学内の優秀な研究成果が叢書の出版につながるようにしなければならない。なぜならば、これが、大学出版部が自分の力で立てる方法であり、大学出版部を通じて良書が出版され続ける土台になるからである。

「いい人で入って、もっといい人になって出よう（Bonus Intra Melior Exi）」。この言葉は啓明大学校・童山図書館のロビーに刻まれてある言葉である。Bonus Intra Melior Exi とは古代ローマの建物のモザイク床に刻まれている格言で、「この家の門のなかに入るときは心を改め直して入ってください。そして出るときはもっといい人になって出てください」という意味である。

大学という知の殿堂に入った学生たちは、この言葉に耳を傾けるべきであるが、大学もまた、ここに入った学生を正しい学問の道へと導くべきである。大学自らが真の人格体として、わが社会が必要とする卓越な人材を育てる仕事にあたらなければならない。

大学出版人もこの大前提の前で例外ではなく、絶えず良書を出版し学問の発展に邁進し、学生だけでなく、一般人にも、そして研究者にも良い本を供給する義務がある。その責任を果たすとき、学問が新しく生産され続け、我々の成果に光が増すだろう。

大学出版部ニュース

表示価格は税別です。

第5回理事会〜余談として

一二月一日、港区・国際文化会館で第5回理事会が開催された。事前に用意された議案は、代表理事職務執行状況の報告、日韓大学出版部協会合同セミナーについて、二〇一八年度予算案の策定、「本のマルシェ」出展など5件である。さらに各部会、事務局の報告が続くが、これらは後にA4判で4、5頁の議事録にまとめられ、事務局長など関係者数名がチェックを入れる。思うほど簡単な作業ではないが、一般社団法人法で作成から、代表理事と監事による署名押印、一〇年間の保存などが義務づけられている。

とここまで書いたのは、近頃では政府関連の文書作成が案外に杜撰だと聞いたからである。公文書管理法によると、行政文書の保存義務は一年未満と一〜三〇年の二種に分かれ、一年未満のものは各省庁の判断で廃棄が可能だという。ではどんな文書が一年未満かというと、そこのガイドラインがどうも曖昧なのである。文書内容についても「意思決定に至る事務の実績を合理的に跡付け、検証できるよう」にという認識はあるが、具体性がない。たとえば天皇退位日に関する首相や三権の長も出席した皇室会議では、出席者の発言を逐一記録した議事録を作成していないのだという。これでは後になって歴史の中身が読みとれない。

詰まるところ、「書く」という行為は人間営為の基本であるような気がする。それは人の内面の威儀を正し、理想に向かわせる力のようなものを持ってはいないだろうか。それが国レベルで疎かにされているとしたら、殆ど恣意（自己勝手）という病菌に国幹が犯されていると言っても過言ではあるまい。ある国立大学図書館では資料購入費をクラウドファンディングに頼らざるを得なくなったというが、基礎研究予算の削減や、恣意的な（と言わざるを得ない）大学の格付による予算配分シフトがじわじわと関係先に影響しているということだろう。電子ジャーナルのパッケージ契約を個別に変更したり、論文のオープンアクセス化に期待しても、それは研究者と出版社を巻きこむ形でまだ時間がかかりそうだ。図書館によっては紙媒体の購入率が3割に落ち込むところもあって、結果的に学術系出版社がワリを食っている。文書について言えば、いくら情報公開が進んでも記録が不完全なのでは何にもならない。それなら外国の例にあるように、完全文書をつくって年数を限って非公開にするほうがまだしも誠実だとは言えないだろうか。

北海道大学出版会

▼新居志郎・倉田毅・林英生・本田武司・小田紘・松本明編著『**病原細菌・ウイルス図鑑**』（A4判・九一六頁・六〇〇〇円）電子顕微鏡写真、病態像や病理組織所見および図版などを多数収録し、一五〇人を超える研究者が執筆した医学関係者必携の専門図鑑。

▼長坂晶子編著『**風蓮湖流域の再生―川がつなぐ里・海・人**』（A5判・二七二頁・四五〇〇円）酪農地帯ゆえに河川汚濁問題を抱える地域の、森と川、森と農地、湿地と河口域の課題を多角的に解説。

▼矢部和夫・山田浩之・牛山克巳監修『**湿地の科学と暮らし―北のウェットランド大全**』（A5判・三八〇頁・三四〇〇円）過去から現在にわたる湿地の変遷を解説し、未来への提言を行う。

▼斉藤マサヨシ著『**サハリンに残された日本―樺太の面影、そして今**』（B5判・八八頁・四二〇〇円）サハリン全島をめぐり写し取った日本統治時代の面影。

▼屋良朝博・野添文彬・山本章子著『**日常化された境界―戦後の沖縄の記憶を旅する**』（B5判・六四頁・九〇〇円）沖縄と基地の現実を知るためのガイド。

弘前大学出版会

▼吉川孝・横地徳広・池田喬編著『**生きることに責任はあるのか―現象学的倫理学への試み**』（四六判・三〇八頁・二五〇〇円）奇妙な書名かもしれない。日々の生活に追われるなか、思い浮かぶことのない問いであろう。しかし、この問いを私たちから投げかけうる人びとがいる。哲学者たちのことである。本書では、彼らに〈生と責任〉をめぐる倫理学的思考の消息をたずねた。

▼持田睦・横地徳広編著『**戦うことに意味はあるのか―倫理学的横断への試み**』（四六判・三八四頁・二八〇〇円）この世界に生まれ落ちたのは、誰にとっても偶さかのことである。他でもありえたのに、なぜかこうして生きる私たちがその世界で自分と戦い、他人と戦い、あるいは超越者とさえ戦う。これらの戦いなしに、私たちは偶さかの生を祝うことはできないのか？

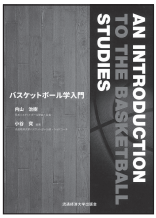
東北大学出版会

▼吉野博監修／中国地域暖房省エネルギー研究会編著『**日本の省エネルギー技術の中国地域暖房への活用［日中対訳］**』（A5判・二八四頁・二五〇〇円）中国の都市住宅の省エネルギーと住宅・都市の環境改善を進めるためには、各住戸のエネルギー消費の実態及び供給システムの効率と運用実態をふまえた改善策を提案していく必要がある。本書では四年にわたる中国東北地域での計測データに基づき、需要供給双方の省エネ方策を提案。高効率熱源システム等について、中国・東アジア諸国における日本企業の事業展開を具体的に提示する。本文および図版もすべて日中対訳形式。

▼川崎健・片山知史・大海原宏・二平章・渡邊良朗編著『**漁業科学とレジームシフト―川崎健の研究史**』（A5判・五三四頁・三五〇〇円）漁況調査からはじまり、漁業科学、漁業政策へと幅を広げていった故・川崎健の水産海洋学。半世紀以上にわたるその研究の軌跡と多大な業績を克明に振り返り、人間と天然資源との関わりを思考しつづけた川崎の理論と理念を再評価する。

流通経済大学出版会

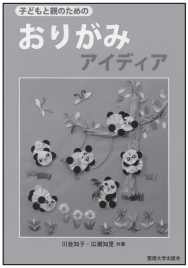
▼内山治樹・小谷究編著『**バスケットボール学入門**』（A5判・二四八頁・一五〇〇円）本書はバスケットボールの分析・究明を通して専門性をより一層高めたいと願う人のために、導入ないし道標の役割を担う入門書である。



▼「スポーツの世界を学ぶ」編集委員会『**〈増補・改訂版〉スポーツの世界を学ぶ―スポーツ健康科学入門**』（A5判・一六六頁・一四〇〇円）本著の全体的な構成は、はじめにコーチング領域、続いて医学的領域、トレーニング論領域、スポーツ社会科学領域とし、読者に前後で関連領域が把握できるようになっている。

聖徳大学出版会

▼川並知子・広瀬知里共著『**子どもと親のためのおりがみアイディア**』（B5判・一二八頁・一五〇〇円）幼児が無理なく折り紙遊びを楽しめる方法や、「折る」だけで、簡単に折り紙を三等分や五等分・六等分にできる技法も取り上げた。新たな折り紙の魅力に気づける一冊。



▼川並知子著『**さくら紙あそび**』（B5判・六四頁・六五〇円）「さくら紙」（おはな紙）の遊び方別に構成し、作品の活用例もふんだんに掲載。親子での紙遊びから保育現場での活用など、ぜひ手本としてさくら紙あそびを楽しんで欲しい。

麗澤大学出版会

▼K・クリスチャンセン著／中山理監訳／堀内一史・宮下和大・江島顕一・竹中信介訳『**子供を開花させるモラル教育―二一世紀のアリストテレス的人格教育**』（A5判・二七二頁・三〇〇〇円）。〈アリストテレス的人格教育〉とは、現代的に再構築したアリストテレスの徳倫理学を教育原理に応用したもの。本書は、道徳的人格とは何か、それを教育現場でいかに高められるか、等に焦点を当てる。日本の道徳教育における多様な課題と同じテーマが論究されており、必読の書。〈目次〉序論：アリストテレス的人格教育とは何か／アリストテレス的人格教育をめぐる根深い神話／アリストテレス的人格教育のための徳目の測定／「フロネーシス」とアリストテレス的人格教育／方法に向けて：対話とアリストテレス的人格教育／教育者を教育する――教師とアリストテレス的人格教育／他

慶應義塾大学出版会

▼ヴォルコフ著／亀山郁夫・梅津紀雄・前田和泉・古川哲訳『**ショスタコーヴィチとスターリン―芸術家と独裁者の奇妙な関係**』（四六判・五〇〇頁・五八〇〇円）独裁者スターリンの弾圧の下、ロシアの芸術家たちはどのように振る舞ったのか。天才作曲家ショスタコーヴィチを中心に、知られざる芸術家の苦闘と当時の文化的状況をスリリングに描き出す。

▼井筒俊彦著／鎌田繁監訳『**井筒俊彦英文著作翻訳コレクション　イスラームの信仰**』（A5判・四三二頁・五八〇〇円）「信じる」とは何か。「正しい信仰」をいかに求めるべきか。イスラーム神学において時に対立を生み発展してきた根源的な宗教概念を意味論的に分析する世界的名著、待望の邦訳。

▼西本希呼著『**〈茨の国〉の言語―マダガスカル南部タンルイ語の記述**』（A5判・三二四頁・四八〇〇円）アフリカ大陸の東海岸に位置する国マダガスカルは、言語学的には遠く離れた東南アジア島嶼部やオセアニア地域と同系統の言語を有する。その南端にある無文字社会タンルイの言語を記述する、世界初の偉業。

専修大学出版局

▼高橋祐吉著『**「企業社会」の形成・成熟・変容**』（A5判・三一六頁・三四〇〇円）八〇年代に形成されたわが国の「企業社会」の成立過程を明らかにして、その後の雇用慣行や働き方がどのように変容してきたかを探る。過労死やワーキングプアの出現、非正社員問題や新自由主義の考え方が企業社会にどう働きかけたのか、日本的な労使関係の本質に迫る。

▼根間弘海著『**大相撲立行司の名跡と総紫房**』（A5判・一二八頁・一二六〇〇円）大相撲立行司の紫房、大正期の行司の昇格エピソード、立行司が裁く番数の変遷、現在の行司の状況など、行司に関する七つの話題に加え、横綱土俵入りにおける露払いと太刀持ちを含む八つの論考からなる大相撲行司に関する研究本。好評第六弾。

▼専修大学今村法律研究室編『**神兵隊事件　別巻六**』（A5判・四五二頁・五六〇〇円）昭和八年七月に起きたクーデター未遂事件の被告人予審訊問調書等の資料集。

大正大学出版会

▼大正大学地域構想研究所編『**地域人**』（A4判・平均一四四頁・一〇〇〇円・毎月十日発売）「現代社会の最優先課題は、地域創生にある」をテーマに、地域の実態理解と再生の方法論をさまざまな視覚から紹介する地域情報満載の総合情報誌。地域特集では、現地取材をもとに、物事を経済的視点だけから見るのではなく、多様な文化、歴史、暮らしに至るまでを掘り起すことを目指している。一方で、地域創生とは何かを豪華連載人による、人口、産業、食文化、リノベーション、ふるさとと信仰など、社会から心の問題まで幅広い提言を毎号掲載する。

第二八号　特集―スポーツが地域を元気にする／巻頭インタビュー・鈴木大地スポーツ庁長官「スポーツによって地域・経済の活性化を目指していく」／スポーツイベントで地域おこし／人を呼ぶ環境づくり／地域特性を生かしたスポーツ他

玉川大学出版部

▼灰島かり著『**絵本を深く読む**』（A5判・二二四頁・二四〇〇円）絵本の世界には「絵」と「文」のほかに、音読する「声」、大人と子どもがともにいる「場」が発生する。『かいじゅうたちのいるところ』『はじめてのおつかい』『ピーターラビットのおはなし』などの絵本を身体ごと楽しみながら、新しい絵本論を切り拓く。著者の遺作となった一冊。

▼野坂悦子作／牡丹靖佳画『**ようこそロイドホテルへ**』（B4変型判・三四頁・一六〇〇円）オランダの港町アムステルダムに一匹のネズミがやってきた。名前はピープ。ロイドホテルに住みついたピープ一家は時を超えて生きる……。絵本「未来への記憶」シリーズ第二弾。

▼野本由紀夫・辻村益朗編／辻村章宏・中武ひでみつ絵『**〈玉川百科　こども博物誌〉音楽のカギ　空想びじゅつかん**』（A4判・一六〇頁・四八〇〇円）身のまわりにあふれる音楽のカギを探す冒険と、世界に一枚しかない作品を見られる空想びじゅつかんに出かけよう！　作曲や図画工作を通して、楽譜のルールやしくみ、名画の意味や不思議を探る。

中央大学出版部

▼今井宏平著『**国際政治理論の射程と限界―分析ツールの理解に向けて**』（A5判・一六八頁・一四〇〇円）国際政治を分析するためのツールである国際政治理論の基礎を理解することを目的としたテキスト。

▼星野智著『**ハイドロポリティクス**』（A5判・三八〇頁・三八〇〇円）国際河川における水資源をめぐる紛争の問題や将来的な水資源のあり方について考察する。

▼高橋薫著『**パトスの受難―考証の時代における追随の文化と自己発露の始まり、フランス近世初期**』（A5判・五八〇頁・五八〇〇円）古典古代を範とした前世代の知を見直し、新たな知を試みるフランス近世初期の分析。

▼伊藤壽英編『**法化社会のグローバル化と理論的実務的対応**』（A5判・四二〇頁・四〇〇〇円）第二六回中央大学学術シンポジウムの成果を収録した論文集。サイバー犯罪、環境規制、終末医療、フィンテックを取り上げる。

東京大学出版会

▼前田亮介著『**全国政治の始動―帝国議会開設後の明治国家**』（A5判・三二〇頁・五二〇〇円）帝国議会の開設により誕生した全国規模の利益調整を行う政治システムを精緻に分析し、近代日本議会による国民国家形成を描きだす。

▼加藤耕一著『**時がつくる建築―リノベーションの西洋建築史**』（四六判・三六〇頁・三六〇〇円）建築の長い歴史における既存建物の再利用の事例を読み解き、スクラップ&ビルドの新築主義から脱却する縮小時代の建築の可能性を示す。

▼寺田新著『**スポーツ栄養学―科学の基礎から「なぜ？」にこたえる**』（A5判・二五六頁・二八〇〇円）スポーツ選手のパフォーマンスを向上させるための食事摂取法、健康の維持増進につながる運動と食事の組み合わせ等、基礎となる理論を紹介し、細胞・分子レベルで解説。

▼宮川公男著『**統計学の日本史―治国経世への願い**』（四六判・二九二頁・二八〇〇円）単なる数理的技術的学問をこえて、国の政策科学を担ってきた統計学。その源流を訪ねることで、社会において統計の果たす役割と存在意義を問い直す。

東京電機大学出版局

▼横幹〈知の統合〉シリーズ編集委員会編『**横幹〈知の統合〉シリーズ　社会シミュレーション―世界を「見える化」する**』（A5判・一三〇頁・一八〇〇円）多様な要素が複雑に絡み合った問題系をいかに解決するか。災害や環境問題、都市問題、グローバリゼーション問題など、社会をとりまく予測不能な問題に対し、「シミュレーション」を用いて解決策を探る。トランプ大統領のツイートから見る社会、航空機による人の移動のデータ分析、Twitterでのデマツイートの拡散と収束、施設や交通の配置で変わる都市のモデル、歴史的建造物や伝統的祭りの山車の内部の透視可視化などに、シミュレーションを適用した事例を解説。話題の書。

▼本郷健・松田晃一著『**学生のためのPython**』（B5判・一九六頁・二五〇〇円）初学者向け課題学習型テキスト。基礎編で動作を確認しながら理解を深め、実践編では例題にタートルグラフィックを使い、視覚的にプログラミングを習得できる。PythonはAI（人工知能）や電子工作などの分野にも広がりをみせる。

法政大学出版局

▼D・ウートラム著／田中秀夫監訳／逸見修二・吉岡亮訳『**啓蒙**』（四六判・二八四頁・四三〇〇円）啓蒙思想が生じた社会的背景から統治や経済に与えた影響、奴隷制、自然科学、宗教、そして革命との関係に至るまで、総体的に読み解き、啓蒙の抱える矛盾や破壊性をも描き出す。

▼A・シュアミ、A・ダヴァル著／大津真作訳『**スピノザと動物たち**』（A5判変型・一七二頁・二七〇〇円）蜘蛛、馬、犬、獅子、ペガサスやセイレン……。動物やキマイラたちの寓話とイラストからスピノザ哲学の核心にいざなう入門書！

▼M・ジェイ著／亀井・神田・青柳・佐藤・小林・田邉訳『**うつむく眼―二〇世紀フランス思想における視覚の失墜**』（四六判・七九六頁・六四〇〇円）芸術・哲学の諸論点をめぐり現代フランスの思想家たちが掲げた反視覚の思考をたどる。

▼M・オークショット著／T・フラー編／野田裕久・中金聡訳『**リベラルな学びの声**』（四六判・二八八頁・三四〇〇円）英国を代表する政治哲学者の講演や論考から教育論をまとめた生前最後の著作。オークショット哲学入門書としても最適。

武蔵野大学出版会

▼三田誠広著『**こころにとどく歎異抄**』（A5判・二四八頁・一八〇〇円）「親鸞の言葉そのものを、読者に届くように語ることはできないものか……？」小説家であり、武蔵野大学の教授である著者が、可能な限りわかりやすい言葉で解説した「超口語訳版の歎異抄」。日本の仏教がよくわかる「仏教の歴史」付き。

▼佐藤佳弘著『**脱！SNSのトラブル**』（四六判・一六〇頁・一三五〇円）SNSは強力な情報発信ツールだが、うかつな投稿がトラブルを生み、「デジタルリンチ」と呼ばれるバッシングを受けることにもなりかねない。日常的に起こりうるSNSのトラブルの数々を紹介し、上手に使うためのノウハウを豊富なイラストでやさしく解説！

武蔵野美術大学出版局

▼武蔵野美術大学 美術館・図書館編『**遠藤彰子 Cosmic Soul**』（B4判変型・一五二頁・三五〇〇円）五〇〇号のキャンバスを三枚もつらねた大作に挑む遠藤彰子。その巨大な二次元に広がる世界を「多元的ヴィジョン、激しいダイナミズム、豊かな幻想性の故に〈バロック的〉と規定するとしても、それは西欧の人間中心的バロックではなく、〈宇宙的バロック〉とも呼ぶべき世界である。」と高階秀爾が解説。代表作から彫刻作品まで、五〇年にわたる画業から約一〇〇点を収録。

▼新見隆『**イサム・ノグチ 庭の芸術への旅**』（四六判・三二八頁・三二〇〇円）抽象彫刻の泰斗であり、舞台美術や「あかり」などプロダクトデザインまで手がけたノグチは、彫刻と社会とのあいだに新しい関係を見出そうと挑戦をつづけた。いつでも誰でも受け入れられる場としての「庭」こそ、その関係の媒体となると考え、ある時は建築家と、ある時は造園家と、最後には香川県庵治のアトリエで独自の世界を展開させた。そこに鎮魂をみる著者の二十数年にわたる「旅」。五五点の作品図版とともに逍遙する。

明星大学出版部

▼小林幹夫編著『**道徳教育と道徳科の授業展開**』（A5判・一九六頁・一八〇〇円）道徳教育の「主体的・対話的で深い学び」を実現するため、長年積み重ねてきた具体的な授業実践を基盤に課題を整理したテキスト。

▼須藤康介著『**教育問題の「常識」を問い直す―いじめ・不登校から家族・学歴まで**』（四六判・二八八頁・一八〇〇円）現代の教育問題は誤ったイメージに捉われていると、教育社会学の「理論」と豊富な「データ」を多用して解説。教育問題を正確に考察するための良書。

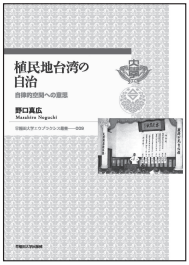
▼斉藤政子編著『**安心感と憧れが育つひと・もの・こと―環境との対話から未来の希望へ**』（B5判・二八〇頁・二三〇〇円）保育のあり方を「ひと」「もの」「こと」の視点から考察。保育を志す学生、保育者・教員に豊富に教材を掲載する実践用テキスト。

▼明星大学教職センター編、教員を目指す君たちに受けさせたいシリーズ。『**面接試験対策講座**』（A5判・二五〇頁・一九五〇円）。『**論作文講座**』第二版（A5判・一七八頁・一六〇〇円）。

早稲田大学出版部

▼森下之博著【早稲田大学エウプラクシス叢書】『**中国賃金決定法の構造**』（A5判・三三〇頁・四〇〇〇円）社会主義における賃金決定の原則「労働に応じた分配」は、市場経済においてどのように継続しているのか。中国の政労使、そして中国進出している日本企業にとって重要な賃金決定の仕組みを歴史・制度分析により明らかにする。

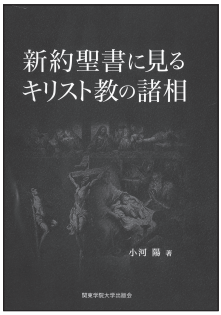
▼野口真広著【早稲田大学エウプラクシス叢書】『**植民地台湾の自治**』（A5判・三三四頁・四〇〇〇円）日本統治時代、立憲主義に基づき英米の植民政策を応用して台湾人による自律的な地方自治を目指した人々がいた。早稲田大学で学んだ楊肇嘉を中心に、植民地時代の台湾人による自治運動がどのように形成されたのかに注目し、日本の植民地施策研究に新たな視点を与える。



関東学院大学出版会

▼小河陽著『**新約聖書に見るキリスト教の諸相**』（A5判・四一〇頁・三八〇〇円）新約聖書はキリスト教信仰の規範文書であるだけでなく、その最初期の歴史を綴る記録文書でもある。これらの文書はいったいどのように解釈することが相応しいのか、またそれらから浮かび上がる初期キリスト教の姿はどのようなものか、入念かつ真摯に問い続けた論考が集められた論文集。

第1部　現代における聖書解釈
第2部　福音書を巡って
第3部　原始教会における展開を巡って
第4部　イエスの死と復活を巡って
第5部　聖書から見る人間とその時代



▼バプテスト研究プロジェクト編『**バプテストの歴史と思想研究①**』（A5判・一一四頁・一四〇〇円）

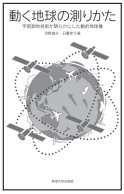
東海大学出版部

▼吉田武著『**処世の別解―比較を拒み「自己新」を目指せ**』（B6判・一七六頁・一三〇〇円）世に溢れる前向きな言葉に閉口する人に贈る「脱力の勧め」。大著『**虚数の情緒**』の著者による警世の書。

▼小笠原喜康・朝倉徹編著『**哲学する道徳―現実社会を捉え直す授業づくりの新提案**』（B6判・一一八頁・二五〇〇円）二〇一八年度から学習指導要領により教科化される「道徳」について具体的な授業の展開事例を提案する。

▼原野健一著『**ミツバチの世界を旅する**』（B6判・三六〇頁・二四〇〇円）私たちの暮らしと繋がりの深いミツバチの行動に焦点を当て、最新の情報を紹介する。

▼河野宣之・日置幸介著『**動く地球の測りかた―宇宙測地技術が明らかにした動的地球像**』（A5変型判・一三六頁・一八〇〇円）プレートテクトニクスの考え方を、初めて実際に計測した宇宙技術とはどのようなものなのかを紹介する。



名古屋大学出版会

▼末廣昭・大泉啓一郎編『**東アジアの社会大変動―人口センサスが語る世界**』（A5判・三五二頁・五四〇〇円）少子高齢化、メガリージョンの形成、労働者の越境など――アジアはいま大変動の真っただ中にある。各国データの分析により急速な変貌を浮き彫りにするとともに、調査からこぼれ落ちる問題にも光を当て、東アジアの現在を捉える。

▼高島正憲著『**経済成長の日本史―古代から近世の超長期GDP推計730―1874**』（A5判・三四八頁・五四〇〇円）奈良時代～近代初頭にいたる列島経済の展開を一望、最貧国水準を抜け出し、一人あたりGDPが着実な上昇に転じていく過程を、はじめて計量的に捉えて、日本史の新たな扉を開く力作。

▼ハンナ・ピトキン著／早川誠訳『**代表の概念**』（A5判・四二六頁・五四〇〇円）政治における代表とは何か。選挙で選ばれたことか、権威を有することか、それとも国民の構成を反映していることか。「代表（representation）」の語義に立ち戻って思想の土台から政治的代表の意味を検討し、代表論の古典となった名著。

名古屋外国語大学出版会

▼佐藤一嘉・矢後智子編著『**英語が好きな子供を育てる魔法のタスク　小学校英語のために**』（B5判・一二〇頁・二五〇〇円）外国語大学ならではの画期的なメソッドを生かしたタスク集。小学校英語の導入にさきがけ、教員だけでなく、さまざまな英語インストラクターにも貴重なテキストとなる。

本書の特徴……新学習指導要領に対応していること。最新の外国語教授法（タスク・ベース・ティーチング）に基づき、読む・聞く・話す・書くの4技能の指導法を学び、授業案を作成することができる。またそれをふまえ、評価の仕方、および評価基準について学ぶことができる。タスクのワークシートをコピーしてそのまま使える。ダウンロードして修正することもできる。Song task・Listening task・Speaking task・Reading task・Writing task・Story telling task・Making a lesson planus など、現場に即して、あくまで実践的で使いやすい教材をめざした。

▼近刊予定『**まちづくりの論理学**』（仮題）城月雄大ほか。『**食と文化の世界地図**』（仮題）佐原秋生・大岩昌子。

三重大学出版会

▼宇都宮陽二朗著『**地球儀学入門**』（A4判・四五〇頁・一六二〇〇円）。

学習机上の小さな地球儀。単に場所を示すばかりでなく、製作時代の世界観の伝達や侵略の先兵としても利用された。ヒトラーの地球儀を調べる過程でこれに気づいた筆者は、本邦を顧み、戦後擦り込まれ続けた現代史への色眼鏡を外すことが出来た。

第一章　地球儀の基礎、
第二章　地球儀の歴史、
第三章　本邦製地球儀について、
第四章　携帯地球儀、
第五章　地球儀上の情報量、
第六章　図像や彫像の中の地球儀、
第七章　資料、
図版・写真リスト
索引・謝辞・あとがき

京都大学学術出版会

▼古川安著『**化学者たちの京都学派―喜多源逸と日本の化学**』（A5判、三三八頁・三六〇〇円）京都大学工学部化学系には、確かな応用にはしっかりした基礎の裏付けが必要という喜多の信念のもと、応用と基礎の間の双方向的な知的刺激によって創造性を高めていく独特の学風が育まれた。喜多から福井謙一・野依良治へと連なる化学者群像を活写する。

▼『**掛谷誠著作集1　人と自然の生態学**』（A5判・五七四頁・六〇〇〇円）アフリカの焼畑農耕民社会を対象とし、自然・社会・文化の相互関係と動態を生態人類学の立場から解明してきた掛谷誠博士の足跡を集大成。［全3巻］続刊＝2呪医と精霊の世界（4月刊）／3実践への問いかけ（6月刊予定）。

▼柿崎一郎著『**タイ鉄道と日本軍―鉄道の戦時動員の実像1941～1945年**』（A5判・四八〇頁・五五〇〇円）枢軸国でありながら「勝者」となった特殊な国タイ。その戦時下の実際はどうだったのか？　鉄道研究で名高い著者が、軍事輸送の細密な研究から迫り、鉄道を巡る争奪戦の実態に迫る意欲作。

大阪経済法科大学出版部

▼藤本和貴夫・宋在穆アジア研究所長共編『**21世紀の東アジア―平和・安定・共生**』（A5判・三二三頁・二五〇〇円）第五回、東アジア国際シンポジウムの報告論文を翻訳・編集。

第一部　平和と安全保障

東北アジアにおける安全保障―ジレンマに対する中国の取り組み（范士明）／朝鮮半島と北東アジアにおける恒久平和の構築／（ケネス・キノネス）／北東アジアの安全保障と日本の平和憲法（澤野義一）／他4編

第二部　持続可能な経済発展と環境保全

大量生産・大量消費型経済発展のもたらすもの―中国繊維産業を例に（辻美代）／韓半島における南北経済協力の過程と展望（梁官洙）／環境問題にどう取り組むか―水問題を例として（中尾正義）／他3編

第三部　国際移住と共生社会

外国人労働者の選別的受入れが進む日本（鈴木江理子）／中国朝鮮族の移住労働―構造と問題点（鄭雅英）／「国民」幻想と移住者の人間不安全―日本の事例（武者小路公秀）／他1編

大阪大学出版会

▼中田研・山崎慶太編『**国際・未来医療学**』（A5判・四六〇頁・二五〇〇円）高齢化し国際化する多様な医療の現状と今後必要となる要件を示す。大阪大学医学部と全学対象に開講された1年生向けの講義録。

▼大阪大学COデザインセンター監修、八木絵香・水町衣里企画編集『**対話で創るこれからの「大学」**』（四六判・二二〇頁・二五〇〇円）「高度汎用力」の養成を目指す大阪大学COデザインセンターが、社会を変える取り組みで活躍するゲストとともに、知のありかた、つなぎ方を考える対談集。

▼稲木昭子・沖田知子著『**アリスのことば学2　鏡の国のプリズム**』（A5判・二四八頁・二〇〇〇円）『**不思議の国のアリス**』の姉妹本『**鏡の国のアリス**』の言語学的な面白さに迫る。該当英文や多角的なコラムも多数掲載。ことば学というプリズムを通して、ことばと論理の多彩な輝きをとらえる大好評「アリスのことば学」第二弾。

関西大学出版部

▼石原敏子著『**英米の絵本の窓から**』（A5判・二七〇頁・二七〇〇円）絵本にできることは何か。外を見ると同時に中を見る、という「窓」のイメージをテーマとして、絵本が、外の世界へと読者の視点を向かわせる上に、自分の心の内を見つめる助けとなることを指摘する。さらに、絵本というメディアの豊かさを示すものとして、ABC絵本、楽譜絵本、手芸絵本というジャンルの作品を紹介する。

▼内藤友紀著『**1930年代における日本の金融政策―時系列分析を用いた定量的分析**』（A5判・一六八頁・二六〇〇円）一九三〇年代の日本における拡張的な金融政策およびそれに付随する為替相場低位安定化の政策効果や実体経済への影響について、さらには信用乗数、貨幣需要関数、期待インフレ率、金利の期間構造、シニョレッジなど、当該期の金融政策を取り巻く経済環境について、経済時系列データを用いた計量分析によって明らかにする。

関西学院大学出版会

▼林宜嗣・中村欣央著『**地方創生20の提言―考える時代から実行する時代へ**』（A5判・二九二頁・二八〇〇円）日本政策投資銀行とのコラボによる地域の実態調査・分析をもとに、地方創生の戦略と実行のためのマネジメント改革を提言。

▼石原俊彦監修／日廻文明・井上直樹編著『**歴史と文化のまち　臼杵の地方創生**』（四六判・二七六頁・二六〇〇円）地域の特性と歴史に注目し、具体的な地方創生の戦略と戦術を構築する視点で活性化に取り組む地方都市の事例を紹介する。

▼吉田健剛著／森田雅也監修『**古川柳入門**』（A5判・三七八頁・二八〇〇円）江戸時代に確立された古川柳の魅力について、豊富な句例とともに鑑賞篇と学習篇にわけて解説。引用句、人名、事項等索引充実。

▼廣田佳彦著『**教育の基本**』（A5判・一三〇頁・一二〇〇円）教育の基本とは何か。教育への希望を持続すべく教員養成と教職課程での「教育原理」を探求。教育の思想を検討しその目的を考察。

広島大学出版会

▼伊藤敏安著『**2000年代の市町村財政―「平成の大合併」と「三位一体の改革」の影響の検証―**』（A5判・一九七頁・二五〇〇円）地方分権一括法の施行、「平成の大合併」、「三位一体の改革」といった二〇〇〇年以降の制度改革は、市町村財政にどう影響したのか―。合併市町村と非合併市町村を対照させながら、財政格差、普通交付税の肥大化の状況、合併を機会に膨張した職員数と議員定数の現状などを丹念に検証している。終章では、合併市町村・非合併市町村を通じて顕在化してきた新たな課題を整理している。

（近刊）

▼衛藤吉則著『**西晋一郎の思想―広島から「平和・和解」を問う**』（A5判・予価三〇〇〇円）京都の「西田（幾多郎）」広島の「西」と称された西晋一郎博士の思想に迫る。

九州大学出版会

▼田辺哲朗『**エネルギーの視点からみた放射線―強くて、恐いけど、怖くない**』（B5判・二七〇〇円）

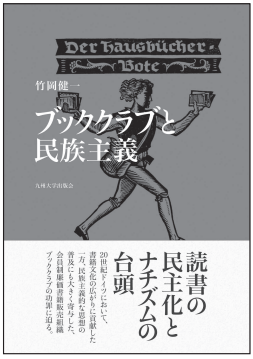
▼藤本隆士『**近世西海捕鯨業の史的展開―平戸藩鯨組主益冨家の研究**』（A5判・四〇〇〇円）

▼長津結一郎『**舞台の上の障害者―境界から生まれる表現**』（A5判・三二〇〇円）

▼西英昭『**近代中華民国法制の構築―習慣調査・法典編纂と中国法学**』（A5判・六八〇〇円）

▼松本圭太『**ユーラシア草原地帯の青銅器時代**』（B5判・八二〇〇円）

▼竹岡健一『**ブッククラブと民族主義**』（A5判・七四〇〇円）書籍文化の広がりに貢献した一方、ナチズムの台頭にも寄与したブッククラブの功罪に迫る。



【50音順】2018年1月1日現在

大同印刷㈱	〒849-0902 佐賀県佐賀市久保泉町上和泉1848-20 TEL 0952-71-8550
ダイニック㈱	〒105-0004 東京都港区新橋6-17-19 御成門ビル TEL 03-5402-1811
㈱太平印刷社	〒140-0002 東京都品川区東品川1-6-16 TEL 03-3474-2821
㈱太洋社	〒501-0431 岐阜県本巣郡北方町北方148-1 TEL 058-324-2111
寶紙業㈱	〒102-0072 東京都千代田区飯田橋3-7-14 TEL 03-3261-5335
㈱竹尾	〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-12-6 TEL 03-3292-3617
㈱東京弘報社	〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-34 TEL 03-3291-1771
㈱とうこう・あい	〒104-0061 東京都中央区銀座7-13-12 サクセス銀座7ビル4F TEL 03-5148-7200
東光整版印刷㈱	〒135-0006 東京都江東区常盤2-12-15 TEL 03-3632-0801
東洋美術印刷株式会社	〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-6-2 TEL 03-3265-9861
㈱トーヨー企画	〒602-0923 京都府京都市上京区油小路通中立売上ル 油橋詰町93-7 TEL 075-411-8288
図書印刷㈱	〒114-0001 東京都北区東十条3-10-36 TEL 03-5843-9700
㈱日新広告社	〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-12-10 喜久屋ビル3F TEL 03-3263-9431
㈱日本経済新聞社	〒100-8066 東京都千代田区大手町1-3-7 TEL 03-5255-2198
萩原印刷㈱	〒112-0004 東京都文京区後楽2-21-12 TEL 03-3811-4272
㈱博報堂	〒107-6322 東京都港区赤坂5-3-1 赤坂Bizタワー19F TEL 03-6441-6711
藤原印刷㈱	〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-4-5 TEL 03-3291-0191
㈱平文社	〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-35-7 TEL 03-3944-0301
㈱堀内印刷所	〒335-0034 埼玉県戸田市笹目3-11-5 TEL 048-422-0029
㈱毎日新聞社	〒100-8051 東京都千代田区一ツ橋1-1-1 TEL 03-3212-3340
誠製本㈱	〒174-0042 東京都板橋区東坂下1-19-5 TEL 03-3967-3952
㈱遊文舎	〒532-0012 大阪府大阪市淀川区木川東4-17-31 TEL 06-6304-9325
㈱読売新聞東京本社	〒100-8055 東京都千代田区大手町1-7-1 TEL 03-3242-1111
㈱ライトコミュニケーション	〒101-0035 東京都千代田区神田紺屋町11 岩田ビル5F TEL 03-3251-7571
渡辺印刷㈱	〒152-0031 東京都目黒区中根2-7-1 TEL 03-3718-2161

一般社団法人大学出版部協会は、私たちの活動をご理解・ご支援くださる皆様による「賛助会員」制度を設けています。ここに趣旨にご賛同くださり、ご支援いただいている各社様をご紹介します。なお、「賛助会員」に関するお問い合わせは、協会事務局までお寄せください。

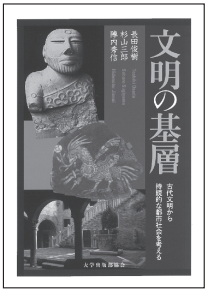
一般社団法人 大学出版部協会 賛助会員名簿

㈱朝日新聞社	〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2 TEL 03-5540-7749
亜細亜印刷㈱	〒380-0804 長野県長野市大字三輪荒屋1154 TEL 026-243-4858
㈱アベル社	〒162-0825 東京都新宿区神楽坂2-19 銀鈴会館408 TEL 03-3235-1360
尼崎印刷㈱	〒661-0975 兵庫県尼崎市下坂部3-9-20 TEL 06-6494-1122
㈱ALE	〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2-8-6 日本橋ビル4階 TEL 03-5652-8627
王子製紙㈱	〒104-0061 東京都中央区銀座4-7-5 TEL 03-3563-7072
岡本出版発送㈱	〒353-0001 埼玉県志木市上宗岡3-16-2 TEL 048-471-6291
カクタス・コミュニケーションズ㈱	〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-4-1 TUG-Iビル4F TEL 03-6261-2290
㈱加藤文明社印刷所	〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-15-6 K-STAGE TEL 03-3261-8281
城島印刷㈱	〒810-0012 福岡県福岡市中央区白金2-9-6 TEL 092-531-7102
㈱紀伊國屋書店	〒153-8504 東京都目黒区下目黒3-7-10 TEL 03-6910-0510
㈱クイックス	〒456-0004 愛知県名古屋市熱田区桜田町19-20 TEL 052-871-9190
㈱粂川印刷	〒112-0012 東京都文京区大塚6-9-7 TEL 03-3943-9811
㈱クリムゾンインタラクティブジャパン	〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10 第2電波ビル4F TEL 03-3525-8001
港北出版印刷㈱	〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-7-7 TEL 03-5466-2201
三松堂㈱	〒101-0065 東京都千代田区西神田3-2-1 住友不動産千代田ファーストビル南館14階 TEL 03-6823-5360
三美印刷㈱	〒116-0013 東京都荒川区西日暮里5-9-8 TEL 03-3803-3131
三立工芸㈱	〒101-0061 東京都千代田区三崎町3-2-10 寺西ビル3F TEL 03-3261-5171
三和印刷㈱	〒381-2226 長野県長野市川中島町今井1822-1 TEL 026-285-2300
信濃印刷㈱	〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-1-11 TEL 03-3237-3601
㈱渋谷文泉閣	〒380-0804 長野県長野市三輪荒屋1196-7 TEL 026-244-7185
㈱眞興社	〒150-0033 東京都渋谷区猿楽町19-2 TEL 03-3462-1181
新日本印刷㈱	〒162-0801 東京都新宿区山吹町342 TEL 03-3269-3611
㈱精興社	〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-9 TEL 03-3293-3021
創栄図書印刷㈱	〒604-0812 京都府京都市中京区高倉通二条上ル天守町766 TEL 075-255-2288

大学出版部協会・ブックレット

大学出版部協会 発行／東京大学出版会 発売【2015年7月刊】

2014年5月に千代田区立日比谷図書文化館で開催された市民シンポジウム「文明の基層」(総合地球環境学研究所・京都大学学術出版会・大学出版部協会 主催／活字文化推進会議 後援)の内容をブックレット化しました。



長田俊樹　おさだとしき(総合地球環境学研究所名誉教授、神戸市外国語大学客員教授)
杉山三郎　すぎやまさぶろう(愛知県立大学大学院特任教授、アリゾナ州立大学人類学学部教授)
陣内秀信　じんないひでのぶ(法政大学デザイン工学部教授)

文明の基層

古代文明から持続的な都市社会を考える

A5 判・80 頁／定価（本体 1,200 円＋税）ISBN978-4-13-003152-3

古代都市のイメージは大きく変わりつつある。インダス文明の諸都市のゆるやかなネットワーク、中米の古代最大都市テオティワカンでの新しい発見。人はなぜ都市を作ってきたのか、その歴史的基層を中世ヨーロッパのヴェネツィアと比較しながら、改めて都市の魅力と未来への可能性を探る。大学出版部協会ブックレット第3弾。

〈主要目次〉

第一章　インダス文明：ネットワーク都市――中央集権的文明観を覆す（長田俊樹）
「大河文明」は本当か？―広大なインダス文明／インダス文字とインダス印章／草原の遺跡、海岸沿いの遺跡―大河から離れて／砂漠の遺跡の謎／「城塞」と「パスポート」―都市ネットワーク論に向けて／墓から見えるもの―格差の不在／砂丘が先か、文明が先か／インダス文明は大河文明ではなかった―農業と水害の視点／古代文明観を見直す―「穀物倉」と「アーリア人侵入説」／文明の衰退について考える／ゆるやかなネットワークの存在／都市社会をどう見るか―中央集権的文明観からの解放

第二章　新世界最大の古代都市テオティワカン：英知の集積としての都市（杉山三郎）
閉ざされた空間の多様性／文明の萌芽／認知能力＝知恵こそが、文明の基盤をなす／中規模都市ができ始める／完全計画都市、テオティワカン／多くの人を迎える巡礼地として／暦と数の体系／「太陽のピラミッド」と「月のピラミッド」の二元性／墓は語る／古代人の交流―物を集めるネットワーク／文明の確立から崩壊へ―伝わり、つながる文明の諸要素

第三章　水都ヴェネツィア：交易都市から文化都市へ（陣内秀信）
水と共生する町、ヴェネツィア／逆・中央集権的構造都市―複雑に交差する水と陸のネットワーク／都市を解読する／交易都市から文化都市へ／オリエント志向と柔軟性／分散的都市から統合的都市へ／なぜ都市に人が集まるか／城壁の無い町／都市モデル再考／川が結ぶネットワーク／水車の活用／考古学調査がヴェネツィアのイメージを変える／ヴェネツィアの食と産物のネットワーク／ラグーナは自然・環境・歴史の宝庫―文化都市から環境都市へ

ネットで注文、受取・支払いは書店店頭で

オンライン書店 e-hon【いーほん】

春の感謝祭

全国書店ネットワーク e-hon

本から始まるオモシロ体験プレゼントキャンペーン

キャンペーン期間：2018/2/15㊍ ～3/29㊍

合計500名様に当たる とびきりの本&体験！

＼e-honにて税込1,000円以上お買上で応募可能！／

A賞
好きな本 2万円分を買い放題※

10名様

B賞
選んで体験！体験ギフト

30名様

C賞
本＋αの体験グッズ

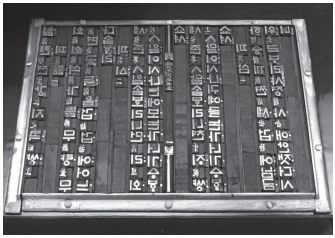
100名様

D賞
図書カード＋QUOカード各500円分セット

360名様

くわしくはHPへ！

※A賞の提供方法は「①MY書店での選書」または「②事務局へ欲しい本を連絡」のいずれかをお選びいただけます。
①は図書カードでの決済となります。なお、一部の会員様は②の方法のみとなります。



表紙写真：『月印千江之曲』の活字組版（復元）
撮影：Daderot [CC0 1.0], via Wikimedia Commons

『月印千江之曲』（げついんせんこうのきょく）は、
グーテンベルクの活版印刷と同時代に
李朝の世宗大王により制作された讃仏歌で、
最古のハングル金属活字印刷本のひとつ。
この活字組版は東京の印刷博物館での展示に際し
制作された復元で、仁川国際空港の
Museum of Korean Culture に展示されている。

※季刊『大学出版』は、大学出版部協会の
公式HPでも、PDF版を全文無料で
ダウンロードいただけます

大学出版113号（2018年冬）
2018年2月28日発行
頒価100円（〒共）

発行所：一般社団法人 大学出版部協会
ISSN 0913-3305
振替00170-8-389131

〒102-0073
東京都千代田区九段北1丁目14番13号
メゾン萬六403号室
TEL 03-3511-2091　FAX 03-3511-2092
E-mail：mail@ajup-net.com
URL：http://www.ajup-net.com/

表紙デザイン：阿部卓也

一般社団法人 大学出版部協会 加盟出版部一覧

■ 北海道大学出版会
〒060-0809 札幌市北区北9条西8丁目
北海道大学構内
TEL 011-747-2308　FAX 011-736-8605

■ 弘前大学出版会
〒036-8560 弘前市文京町1番地
弘前大学附属図書館内
TEL 0172-39-3168　FAX 0172-39-3171

■ 東北大学出版会
〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1
東北大学構内
TEL 022-214-2777　FAX 022-214-2778

■ 流通経済大学出版会
〒301-8555 龍ヶ崎市平畑120
TEL 0297-60-1167　FAX 0297-60-1165

■ 聖徳大学出版会
〒271-8555 松戸市岩瀬550
TEL 047-365-1111　FAX 047-363-1401

■ 麗澤大学出版会
〒277-8686 柏市光ヶ丘2-1-1
TEL 04-7173-3331　FAX 04-7173-3154

■ 慶應義塾大学出版会
〒108-8346 港区三田2-19-30
TEL 03-3451-3168　FAX 03-3451-3124

■ 専修大学出版局
〒101-0051 千代田区神田神保町3-10-3
TEL 03-3263-4230　FAX 03-3263-4288

■ 大正大学出版会
〒170-8470 豊島区西巣鴨3-20-1
TEL 03-3918-7311　FAX 03-5394-3038

■ 玉川大学出版部
〒194-8610 町田市玉川学園6-1-1
TEL 042-739-8935　FAX 042-739-8940

■ 中央大学出版部
〒192-0393 八王子市東中野742-1
TEL 042-674-2351　FAX 042-674-2354

■ 東京大学出版会
〒153-0041 目黒区駒場4-5-29
TEL 03-6407-1069　FAX 03-6407-1991

■ 東京電機大学出版局
〒101-0047 千代田区内神田1-14-8
TEL 03-5280-3433　FAX 03-5280-3563

■ 法政大学出版局
〒102-0073 千代田区九段北3-2-3
法政大学九段校舎内
TEL 03-5214-5540　FAX 03-5214-5542

■ 武蔵野大学出版会
〒202-8585 西東京市新町1-1-20
武蔵野大学構内
TEL 042-468-3003　FAX 042-468-3004

■ 武蔵野美術大学出版局
〒180-8566 武蔵野市吉祥寺東町3-3-7
TEL 0422-23-0810　FAX 0422-22-8309

■ 明星大学出版部
〒191-8506 日野市程久保2-1-1
TEL 042-591-9979　FAX 042-593-0192

■ 早稲田大学出版部
〒169-0051 新宿区西早稲田1-9-12
TEL 03-3203-1551　FAX 03-3207-0406

■ 関東学院大学出版会
〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1
TEL 045-786-5906　FAX 045-785-9572

■ 東海大学出版部
〒259-1292 平塚市北金目4-1-1
TEL 0463-58-7811　FAX 0463-58-7833

■ 名古屋大学出版会
〒464-0814 名古屋市千種区不老町1
名古屋大学構内
TEL 052-781-5027　FAX 052-781-0697

■ 名古屋外国語大学出版会
〒470-0197 日進市岩崎町竹ノ山57
名古屋外国語大学内
TEL 0561-75-2503　FAX 0561-75-1723

■ 三重大学出版会
〒514-8507 津市栗真町屋町1577
三重大学総合研究棟Ⅱ 3階
TEL 059-232-1356　FAX 059-253-3095

■ 京都大学学術出版会
〒606-8315 京都市左京区吉田近衛町69
京都大学吉田南構内
TEL 075-761-6182　FAX 075-761-6190

■ 大阪経済法科大学出版部
〒581-8511 八尾市楽音寺6-10
TEL 072-941-9129　FAX 072-941-9979

■ 大阪大学出版会
〒565-0871 吹田市山田丘2-7
大阪大学ウエストフロント
TEL 06-6877-1614　FAX 06-6877-1617

■ 関西大学出版部
〒564-8680 吹田市山手町3-3-35
TEL 06-6368-0238　FAX 06-6389-5162

■ 関西学院大学出版会
〒662-0891 西宮市上ヶ原一番町1-155
TEL 0798-53-7002　FAX 0798-53-5870

■ 広島大学出版会
〒739-8512 東広島市鏡山1-2-2
広島大学図書館内
TEL 082-424-6226　FAX 082-424-6211

■ 九州大学出版会
〒814-0001 福岡市早良区百道浜3-8-34
九州大学産学官連携イノベーションプラザ305
TEL 092-833-9150　FAX 092-833-9160